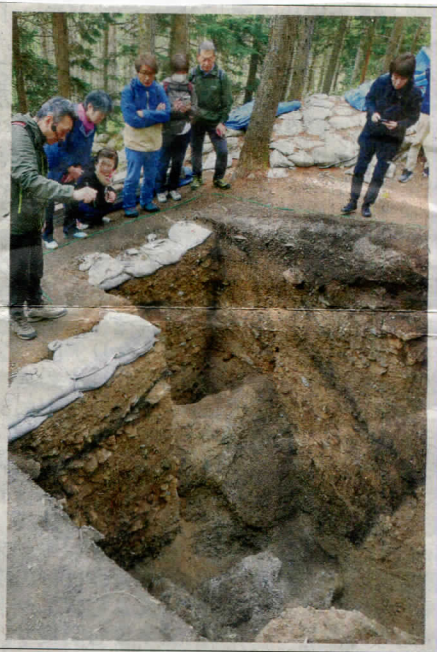
黒曜石の〝縄文鉱山〟体感

下諏訪町観光振興局　星ケ塔遺跡見学ツアー

下諏訪町観光振興局は19日、同町郊外にある国史跡「星ケ塔黒曜石原産地遺跡（星ケ塔遺跡）」を巡る見学ツアーの今季初回を開いた。町内の7人が参加。霧ケ峰の北西に位置する鷲ケ峰の山裾、標高1500㍍の林内に広がる縄文時代晩期（約3000年前）の黒曜石採掘抗を間近で観察し、当時の暮らしに思いをはせた。



星ケ塔遺跡の見学ツアーで、縄文時代晩期の黒曜石採掘抗を見学する参加者

ツアーは人気テレビ番組の取材を機に企画し、今年で4年目。町内や全国の人を対象に10月末まで、普段は入れない内部を公開している。

最初に星ケ塔ミュージアム「矢の根や」で、採掘抗を発掘した諏訪湖博物館の宮坂清館長が時代背景や調査状況を解説。「諏訪産の黒曜石は透明度が高く良質で、中部や関東など直径500㌔の範囲で出土している」とし、青森県の三内丸山遺跡でも見つかったことから、海路で運んだ可能性に言及した。

広さ約3万5000平方㍍に193カ所の採掘跡が残る遺跡に着くと、黒曜石が散らばる獣道を進み、採掘抗を見学。参加者は地表から深さ3㍍の岩脈に開けられた大きな穴や細かい黒曜石が積もった層を上からのぞき、〝縄文鉱山〟の規模を肌で感じた。

初めて訪れた田中輝明さん（64）＝同町西鷹野町＝は「黒曜石のかけらは知っていましたが、巨大な塊で驚いた。数千年前から交易に使っていたなんて不思議な気がします」と話していた。（飛矢崎貴規）